

グランベリーパーク

事業主体 東急株式会社

株式会社東急レクリエーション

設計・監理 東急設計コンサルタント

施設デザイン LLT (ラグアルダ・ロウ・棚町建築事務所)

ランドスケープデザイン Fd Landscape

ティンハウス建築設計事務所

施工 セントラルコート：東急・鉄建・京王・東急リニューアルJV

ステーションコート：東急建設

商業施設に公園が融合したパークプラザ



個々に特徴のあるファサードを背に、シンボルツリーを象徴としたグランベリープラザ



象徴的な壁面緑化のファサードが人々を迎えるウェルカムプラザ



ファニチャーを充実させピクニックのように食を楽しむことができるマーケットプラザ



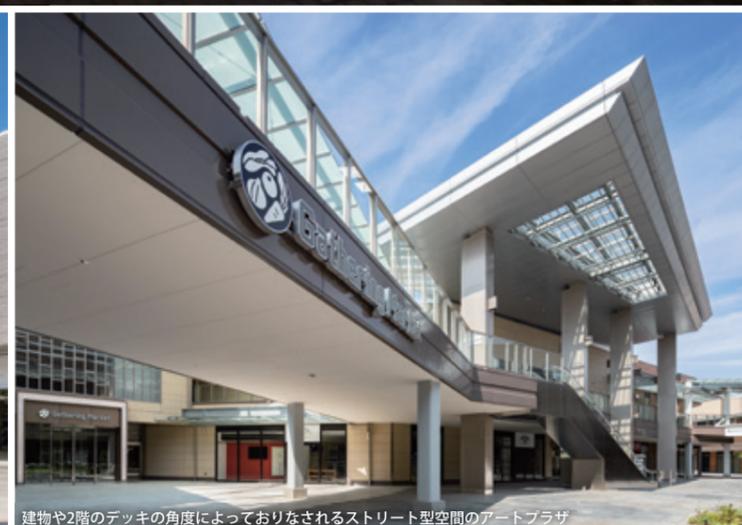
ケヤキ・大階段・光ファイバーによって演出され、水景が広がるグランベリーパーク最大規模のオアシスプラザ



パークプラザと鶴間公園を眺める



炎のオブジェと約300インチの大画面でエンターテインメントを楽しむシアタープラザ



建物や2階のデッキの角度によっておりなされるストリート型空間のアートプラザ



パークプラザ鳥瞰

まちをつなぐグランベリーパーク

「グランベリーパーク」は、2017年に惜しまれつつも閉店した「旧グランベリーモール」の跡地を再整備した商業施設であり、町田市と東急がまちづくりの協定を結び、官民連携・協働プロジェクトの新たな地区として総称された「南町田グランベリーパーク」の一部である。

官民連携・協働事業として、2016年に「土地区画整理事業」を採用し、道路や公園等を再構築したことでプロジェクトの魅力は一気に昇華した。中でも鶴間公園と旧グランベリーモールの間の道路を公園北側などに再配置し、車道の横断なしに駅と商業施設、そして公園がつながったことは大きい。その中央に位置した本計画は、商空間としての回遊性ととも、まち全体をシームレスにつなぐことが求められた。

「ヴェリッジ型空間」で構成されたグランベリーパーク

グランベリーパークは南町田グランベリーパーク駅直結の「ステーションコート」とグランベリーブリッジでつながる「セントラルコート」から構成される。駅から公園や周辺住宅地へつながる屋外空間（歩行者ネットワーク）を内包するアウトモール型の商業施設であり、計画にあたっての考え方の核は大きく2つある。

1つ目は大規模商業施設で重要な駐車場の扱いである。ステーションコートでは改札階より下に、セントラルコートでは広大な丘状の敷地の中心に駐車場を設けることで、車のアプローチレベルよりも上のレベルで歩行者ネットワークを構築し、完全な歩車分離を実現した。また、セントラルコートは駐車場の周辺を2～3層の店舗で囲うことで、周辺からは巨大な駐車場が見えないように配慮した。約240もの店舗数に対応する駐車台数を確保しつつも、駅を降りてから公園へ至る間に駐車場の存在を感じさせない計画となっている。

2つ目は24時間通行可能な歩行者ネットワークのシークエンスである。「ヴェリッジ型空間」をコンセプトに、歩行者ネットワークの要所に多様な楽しみ方ができる7つの開放的な屋外広場（プラザ）を配置し、そこに向かうまでの屋外空間の外壁の角度を個々に設定することで、シークエンスを豊かにしている。また、大きな建物ボリュームを分節するとともに、屋根を家型とし、外壁の仕上げを自然調の素材にするデザインを用いることで、まち並みにも配慮した。自然とにぎわいの融合した空間が点在するグランベリーパークは、多くの人に愛される居場所となり、新たな風景が生まれる

(高橋ユカリ・大室淳一・村本 等・濱奈津子・扇芝孝誠・倉 雄作/東急設計コンサルタント)



マーケットプラザの夕景



グランベリープラザの夜景



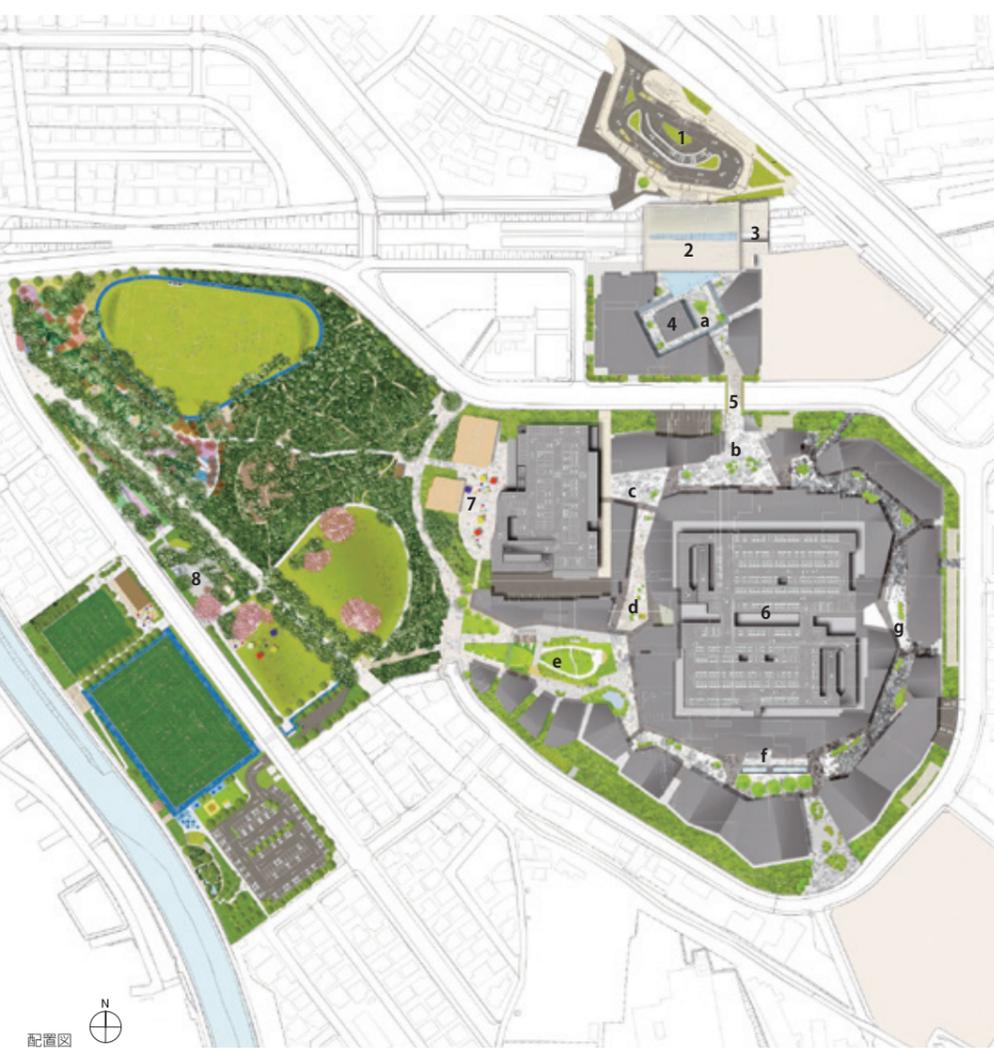
豊かなシークエンスを持つ歩行者ネットワーク



南町田グランベリーパーク駅
グランベリーパーク ステーションコートA棟

事業主体 東急電鉄株式会社
設計・監理 東急電鉄株式会社
東急設計コンサルタント
施設デザイン LLT (ラグアルダ・ロウ・棚町建築事務所)
施工 東急建設

グランベリーパークへ向かう大階段と植栽・水景エリア



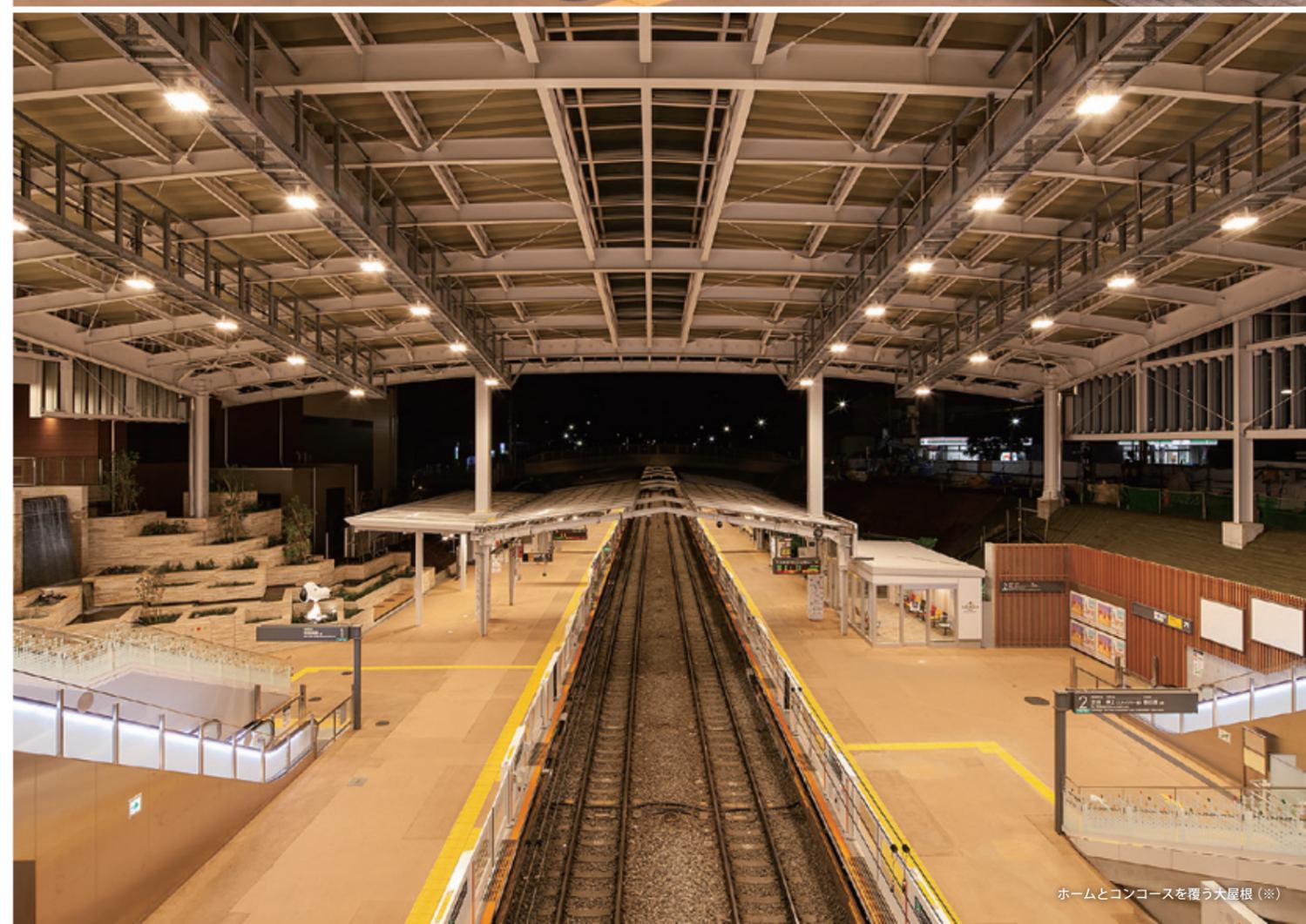
グランベリーパーク ステーションコートB棟
所在地 東京都町田市鶴間 3-3-1
用途 物販店舗・飲食店舗・駐車場など
事業主体 東急株式会社
設計・監理 東急設計コンサルタント
施設デザイン LLT (ラグアルダ・ロウ・棚町建築事務所)
ランドスケープデザイン Fd Landscape
ティーハウス建築設計事務所

施工 東急建設
敷地面積 7,232.35㎡
建築面積 6,270.79㎡
延床面積 16,514.56㎡
構造・規模 S造一部RC造 地下1階 地上3階
竣工 2019年10月
撮影 川澄・小林研二写真事務所

グランベリーパーク セントラルコート
所在地 東京都町田市鶴間 3-4-1 他、4-2
用途 物販店舗・飲食店舗・駐車場など
事業主体 東急株式会社
株式会社東急レクリエーション
設計・監理 全体統括：東急設計コンサルタント
パビリオン・一部トイレ：丹青社
施設デザイン LLT (ラグアルダ・ロウ・棚町建築事務所)
ランドスケープデザイン Fd Landscape
ティーハウス建築設計事務所

施工 東急・鉄建・京王・東急リニューアル JV
敷地面積 76,537.52㎡
建築面積 46,448.95㎡
延床面積 134,334.82㎡
構造・規模 S造一部RC造 地下1階 地上5階
竣工 2019年10月
撮影 川澄・小林研二写真事務所

- 1. 北口広場
- 2. 南町田グランベリーパーク駅
- 3. グランベリーパーク ステーションコートA棟
- 4. グランベリーパーク ステーションコートB棟
- 5. グランベリーブリッジ
- 6. グランベリーパーク セントラルコート
- 7. パークライフ・サイト
- 8. 鶴間公園
- a. ウェルカムプラザ
- b. グランベリープラザ
- c. シアタープラザ
- d. マーケットプラザ
- e. パークプラザ
- f. オアシスプラザ
- g. アートプラザ



ホームとコンコースを覆う大屋根(※)





ウェルカムプラザからみた南町田グランベリーパーク駅



北口広場からみた南北自由通路

新たなまちの玄関口、南町田グランベリーパーク駅

「南町田グランベリーパーク」は、主に南町田グランベリーパーク駅、駅北側の北口広場、駅南側のグランベリーパーク、パークライフ・サイト、鶴間公園を包含した、まち全体の総称である。2019年10月1日には、まちの玄関である駅も「南町田駅」から「南町田グランベリーパーク駅」に改称した。

南町田グランベリーパーク駅は新しいまちの玄関口として大きく2つの役割を担っている。1つ目は、線路で分断された駅の北側と南側のまちをつなぐことである。町田市からの受託事業として南北自由通路を新たに設置し、北口広場からバリアフリーで駅の南側に抜けられる歩行者ネットワークを拡充した。南北自由通路に面して新たに改札を設けることで、まちの南北の往来を積極的かつ安全に促す計画としている。

2つ目は、まちの高揚感を駅構内から感じられるようにすることである。ダイナミックにまちへとつながる大階段を配置し、ホームからコンコースを開放的な大屋根で覆い、植栽と水が流れるエリアに太陽の光と風を取り込んで、駅に公園を感じさせる自然とにぎわいが融合した表情を創った。

南町田グランベリーパークは、鉄道と商業施設と都市公園の一体事業という日本でも他に類を見ない新たな持続可能なまちとして、永く多くの人に愛されることになるであろう。

(本多元士/東急電鉄、金子明代/東急設計コンサルタント)

南町田グランベリーパーク駅 グランベリーパークステーションコートA棟

所在地	東京都町田市鶴間 3-3-2	敷地面積	4,894.57㎡
用途	駅舎・店舗	建築面積	3,472.67㎡
事業主体	東急電鉄株式会社	延床面積	1,483.70㎡
設計・監理	東急電鉄株式会社	構造・規模	S造 地上2階
	東急設計コンサルタント	竣工	2019年12月
施設デザイン	LLT (ラグアルダ・ロウ・棚町建築事務所)	撮影	川澄・小林研二写真事務所
施工	東急建設		ヨシダ建築写真事務所 (※)



中央改札からみたステーションコートA棟の中庭